

視 点

地域の未来は、同じ舟から生まれる

株式会社北九州銀行 代表取締役頭取 岡田 健吾



地域金融機関の役割は、この数年で大きく変わったと感じています。

かつて銀行の仕事といえば、まず融資でした。お金を必要とする方に資金を提供し、事業や暮らしを支える。もちろん、今も変わらず大切な役割です。

一方で、現場で経営者の皆さまのお話を伺うと、課題は資金繰りだけではありません。新たな販路を開拓したい、人材を採用したい、後継者がいない、DXを進めたい、海外へ挑戦したい。人口減少や脱炭素への対応も重なり、経営課題はより多様で複雑になっています。

こうした中で金融機関には、融資に加えてより幅広い価値提供が求められるようになりました。同じ金利をお支払いいただくのであれば、より高い付加価値を返せる金融機関が選ばれる時代になったのです。

山口フィナンシャルグループでは、パーパスである「地域の豊かな未来を共創する」のもと、「同舟共命型ビジネスモデルの確立」を掲げています。

同じ舟に、共に乗る。同じ方向を、共に見る。そして、結果に、共に責任を持つ。

お客さまと事業リスクを分かち合いながら、融資やエクイティ、各種ソリューションを組み合わせ、構想段階から実行まで伴走する。単なる取引行ではなく、同じ目標に向かうパートナーになること。それが私たちの考えるこれからの地域金融機関の姿です。

私は今、人材不足や事業承継、DXといった課題に対し、一社だけで解決することが難しい時代になったと感じています。限られた人材や資本をどこに振り向けるのか。何を自社で担い、

何を外部と組み合わせるのか。その選択こそが、これからの経営そのものではないでしょうか。

自前主義から共創へ―誰と組むのか。どのような仲間と未来を描くのか。その選択が企業の競争力を左右する時代になりました。

例えば事業承継の分野では、経営者の想いに耳を傾けながら、後継者候補の探索や外部経営人材の招聘、資金面の設計まで伴走した事例があります。なかでも、外部の経営人材を地域企業へつなぐサーチファンドについては、グループとして日本で初めて取り組み、ここ北九州で全国初となる案件を実現しています。

また、AIの活用によって事務負担を軽減し、行員がお客さまと向き合う時間を増やす取り組みも進めています。伴走支援を個人の経験や力量に頼るのではなく、組織として実装していく挑戦です。

当行は開業十五周年の節目を「第二創業」と位置付けています。

十年後、地域の重要な決断の場で、「北九州銀行が関わらなければ話が前に進まない」と言っていただける存在になること。それが私の覚悟です。

地域の未来は、誰かが運んでくれるものではありません。一社一社の挑戦と、それを支える仲間との連携の中から生まれます。

私たちはこれからも、お客さまと同じ方向を見て、同じ舟に乗り、ともに未来を切り拓いていきます。その一艘一艘の挑戦の積み重ねが、山口・広島・北部九州地域の未来を運んでくると私は信じています。

北九州銀行ホームページ

